

きゅうしゅう

No.40



目次 CONTENTS

1. 部隊紹介

航空自衛隊 高畑山分屯基地

2. 自治体紹介～宮崎県串間市～

3. 業務紹介 地方協力確保事務

4. インフォメーション

(表紙について)

平成29年10月12日(木)、三菱重工業株式会社長崎造船所において、護衛艦の命名・進水式が行われ、「しらぬい」と命名されました。
※詳細は、「4. インフォメーション」で紹介いたします。



九州防衛局 *Kyushu Defense Bureau*

<http://www.mod.go.jp/rdb/kyushu/>

編集・発行

九州防衛局 総務部

福岡市博多区博多駅東2丁目10-7 福岡第2合同庁舎 TEL092-483-8811



1. 部隊紹介

航空自衛隊高畑山分屯基地



第13警戒群司令 兼
高畑山分屯基地司令
2等空佐 山本 康貴
(やまもと やすたか)

九州防衛局広報誌「きゅうしゅう」をご覧の皆さまこんにちは。第13警戒群司令兼ねて高畑山分屯基地司令の山本です。

高畑山分屯基地は、宮崎県最南端の串間市の高畑山山頂地区に所在しており、最近では、種子島及び大隅半島の内之浦から打ち上げられるロケットが良く見ることができる風光明媚なところです。

沿革は、昭和29年から米空軍のレーダー基地として建設され、昭和34年、米軍から移管され昭和36年7月に第13警戒群として発足しました。

主として、我が国とその周辺の上空を24時間365日の態勢で警戒監視する業務を行っています。当分屯基地では、毎年の基地開庁記念行事等の開催や地域行事への参加、各種ボランティア活動の参加を通じ、地域住民と積極的に交流し、自衛隊に対する理解を深めて頂いています。

特に、当基地の「ひよっとこ踊り」は、串間市民秋まつりでは欠かせない催し物となっています。また、今年は、基地開庁60周年を迎え、串間市民文化会館における西部航空音楽隊による記念演奏会、新田原基地のF-15戦闘機による航過飛行、CH-47Jヘリコプター体験搭乗等を含めた記念行事を実施する予定です。

今後も地域の皆様から信頼を頂けるように任務を邁進していく所存であります。これからも引き続き自衛隊に対しての深いご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。





御崎馬

基地から見える都井岬



創立60周年記念西部航空音楽隊演奏会



串間市民秋まつり (ひよつとこ部)



創立60周年記念行事



幸島



H2Aロケット36号機 (みちびき4号)

2. 自治体紹介～宮崎県串間市～



串間市

夢は、南の果てにある。

太陽と海と野生動物。天然づくし、くしまし。



野生鳥の楽園
幸島

野生馬が息づく
都井岬



九州初！国から認定を受けた「串間エコツーリズム」で非日常を体験しよう！



7万食を突破！



定置網体験



SUP体験

●お問合せ

串間市商工観光スポーツランド推進課
(社)串間市観光物産協会

☎0987-72-1111

☎0987-72-0479

串間市と自衛隊の関わり

本市は国の特別天然記念物である『都井岬ソテツ自生地』を始め、『岬馬およびその繁殖地』『幸島サル生息地』『石波の海岸樹林』などの国指定天然記念物、日本の渚百選に選ばれた石波海岸、希少野生動植物の重要生息地に指定される笠祇・古竹草原や本城干潟、九州最大級とも言われる都井岬沖のテーブルサンゴ群集など、豊富な資源に恵まれ、雄大な自然を身近に楽しむことができる自然都市であります。

平成29年2月には、豊富な資源を持続可能な形で保護活用し、後世へ伝えていくための串間エコツーリズムの全体構想が、九州では初となる国の認定を受け、本市が有する特性を生かしたエコツアーを堪能することができます。

今後も東九州自動車道の整備をはじめとする交通インフラ網の整備、都井岬の再開発、まちなかの道の駅を中心とした市街地活性化、基幹産業であります農業の6次産業化など、本市の特色を生かした地方創生に取り組んで参ります。



串間市長 島田 俊光



日本の渚百選に選ばれた石波海岸



九州で初めて国の認定を受けた
串間エコツーリズムロゴマーク

自衛隊は「国の防衛」はもちろん、東日本大震災や熊本地震などの災害に対する「災害派遣」、国連平和維持活動やイラク復興支援活動などの「国際貢献」においても、活動を展開されております。

串間市においては、昭和31年10月高畑山に、「高畑山米軍レーダー基地」が創設され、その後、「航空自衛隊第13警戒群高畑山分屯基地」が創設されたわけですが、これまでの間、平時から常続的に警戒体制をとり、侵略の未然防止に努める高畑山分屯基地が、「国の防衛」の一翼を担っていることは言うまでもなく、誠に誇りに思う次第であります。

また、串間市民秋祭り、成人祝賀駅伝、観月会等において、地域あるいは市民との交流を積極的に図っていただいております。

本市としても市民が安心して暮らせるまちづくりにむけ、自衛隊の皆様とは防災訓練に参加していただくなど各種協力をいただいております。今後も自衛隊とは連携を図りながら、防災体制の強化に取り組んでまいりたいと考えております。

3. 業務紹介

地方協力確保事務

九州防衛局では、防衛省・自衛隊の施策や活動を広く地域住民等の皆様に理解していただくため、防衛白書の説明、日米交流事業、防衛問題セミナーや自衛隊の活動などの写真パネル展などを行っています。

本号では、9月以降に実施した防衛問題セミナー、防衛白書の説明を紹介します。

>>>>>>> 第34回防衛問題セミナーを開催 <<<<<<<<

9月21日(木)、長崎県佐世保市のアルカスSASEBOにて、「**弾道ミサイルの脅威に備えて**」と題し、2部構成で開催しました。

第1部では防衛省防衛政策局防衛政策課大和太郎課長が、「**北朝鮮情勢と弾道ミサイル防衛について**」と題し、北朝鮮情勢や弾道ミサイルの開発状況、対するわが国の弾道ミサイル防衛(BMD)システムの概要や配備、展開状況、並びにBMDシステムの能力向上などを説明しました。

第2部では内閣官房副長官補付伊藤敬内閣参事官が、「**Jアラートによる弾道ミサイル情報の伝達について**」と題し、全国瞬時警報システム(Jアラート)の概要、弾道ミサイル落下時の行動や各自治体の実施した弾道ミサイル落下を想定した訓練の状況を説明しました。

来場者からは「ミサイルの迎撃態勢は万全なのか」等の質問が寄せられ、昨今の北朝鮮情勢への来場者による高い関心が示される中、盛況裡にセミナーは終了しました。



>>>>> 平成29年版防衛白書を地方公共団体等へ説明 <<<<<

防衛白書は、わが国防衛の現状と課題及びその取組を広く内外へ周知し、その理解を得ることを目的に毎年刊行しており、平成29年版で43回目となります。

九州防衛局では、防衛白書を通じて防衛省・自衛隊への理解を深めていただき、防衛省・自衛隊と地方公共団体等との連携強化を図ることを目的として、地方協力本部及び各部隊と連携し、九州各地の地方自治体等への説明を実施しています。

なお、防衛白書は市販のほか、パソコン等でもご覧いただけます。

防衛省ホームページ(HTML版及び電子書籍版)

<http://www.mod.go.jp/j/publication/wp/>

スマートフォン向けダイジェスト版

<http://www.mod.go.jp/j/publication/wp/wp2017/sp/>



スマートフォン向けダイジェスト版は、スマートフォンのカメラでQRコードを読み取るか、QRコードをタップしてアクセスして下さい。



4. インフォメーション

平成29年度実爆を伴う滑走路被害復旧訓練

平成29年8月30日(水)、大分県の日出生台演習場において、平成29年度実爆を伴う滑走路被害復旧訓練が行われ、当局から25名が研修のため参加しました。

この訓練は、滑走路が敵航空機の攻撃により被害を受けた際、その被害を迅速に復旧し航空機の運航を再開させることを目的として、航空自衛隊西部航空方面隊が実施したもので、北部航空方面隊、中部航空方面隊との毎年持ち回りで、今回は平成26年度以来3年ぶりの訓練となります。

午前10時、演習場内に建設された模擬滑走路(縦25m、横25m)を上空から敵航空機が攻撃したとして、あらかじめ埋設していた爆弾を爆発させました。

爆破後は、ドローンによる被害状況の調査及び重機による金属片やコンクリート片の除去が行われ現場周辺の安全が確認された後、研修者が現場に近づいて被害状況を見学しました。

復旧作業は午後から開始され、ショベルカー、ブルドーザー、ローラー等を駆使し、大きくえぐられた模擬滑走路の弾痕(直径約1.1m、深さ約2m)も手際よく見る見るうちに修復され、予定より1時間早い3時間で終了しました。



▲午前10時模擬滑走路を爆破

平成29年度九州防衛施設地方審議会開催

平成29年9月27日(水)、平成29年度九州防衛施設地方審議会が、田中里美会長をはじめ委員7名の出席を得て開催されました。

今回は、長崎防衛支局の業務等について担当者及び三菱重工業から説明を受け、その後、三菱重工業長崎造船所の視察を行いました。



▲概要説明風景



▲三菱重工業長崎造船所史料館



▲史料館にて記念撮影

第12回米軍基地・西海市親善ソフトボール大会開催

平成29年10月15日(日)米海軍佐世保基地関係者と西海市民が参加する「第12回米軍基地・西海市親善ソフトボール大会」が横瀬浦公園グラウンドで開催され、三貝九州防衛局長及びブラッド L、ストーリングス米海軍佐世保基地司令官が参加しました。

大会当日はあいにくの雨となり、急ぎ屋根付き施設でのドッチビー(フライングディスクを使ったドッジボール)とグラウンドゴルフに変更となりましたが、ソフトボールをあきらめきれない日米双方の参加者は、雨に打たれながらもソフトボールを行って、約100名の参加者がそれぞれのゲームを楽しみました。

試合後は、参加者がその場で作った焼肉や焼きそばに舌鼓を打ちながら親睦を深め、充実した1日を過ごしました。



▲ドッチビーを楽しむ子供たち



▲雨でもソフトボールしないと気が済まない人たち



▲大会終了後、西海市民と親睦を深めるブラッド L、ストーリングス司令官(中央)

新型護衛艦「しらぬい」命名・進水式

平成29年10月12日(木)、三菱重工業株式会社長崎造船所において、新型護衛艦の命名・進水式が行われ、「しらぬい」と命名されました。

式典には、防衛省関係者等1800人が参加し、村川海上幕僚長が防衛省を代表して命名書を読み上げ、「しらぬい」と命名すると、海上自衛隊佐世保音楽隊がファンファーレを演奏するなか、艦首付近の甲板から垂れ幕が下がり、艦名が披露されました。

続いて村川海上幕僚長が支綱を鉞(まさかり)で切断すると、くす玉が割れ、「しらぬい」はゆっくりと海上に滑り出しました。

「しらぬい」は、海上自衛隊護衛艦として初めてガスタービン推進に加え電気推進システムを組み合わせたハイブリッド護衛艦として昨年進水した新型護衛艦「あさひ」に続き、2番艦として建造され、最大速力30ノット、基準排水量は約5100トン、全長151メートル、幅18.3メートル、1番艦の装備に加え潜望鏡探知レーダーを備えています。今後、ぎ装工事(各種機器等の搭載)が施され、平成31年3月に就役する予定です。



▲護衛艦「しらぬい」と命名し、支綱を切断する村川海上幕僚長



▲進水する護衛艦「しらぬい」

平成29年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式

平成29年10月17日(火)米海軍佐世保基地の厚生施設「ハーバービュークラブ」において、平成29年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式が行われました。

この表彰式は、佐世保地区に所在する在日米軍施設に永きにわたり勤務された157名の従業員に対し、その労をねぎらい、併せて労働意欲及び作業能率の向上を図ることを目的として、日米共催で実施されたものです。

表彰式は、来賓として長崎県を始め、佐世保市、西海市を代表する方々、佐世保労働基準監督署長、全駐労長崎地区本部執行委員長にご臨席いただき、日米両国歌吹奏の後、主催者挨拶として三貝九州防衛局長から「永年勤続者の方々へ、これまでの御苦勞と御努力に対して心から敬意を表し、皆様方の動きが在日米軍の円滑かつ効果的な運用に寄与し、日米安全保障体制を支えています。」との式辞が、また、ライオン S、アニス米海軍佐世保基地参謀長から「佐世保が艦隊支援基地として評判が高いのは、皆様の仕事が素晴らしいからです。皆様のおかげで、米海軍と佐世保市との絆も深まりました。」との式辞が、それぞれ述べられました。

引き続き、勤続年数に応じ30年、20年、10年ごとに表彰状と記念品が授与され、最後に被表彰者を代表して、財政管理部の前田務氏が、「日米両国の関係者、職場の上司、同僚に深く感謝し、これからも困難を乗り越え、良好な日米両国関係を維持するために、一層精進していきたい。」との答辞を述べられ、厳粛な雰囲気の中、式典は滞りなく終了しました。



表彰状及び記念品の授与



▲被表彰者代表答辞



▲式典風景

平成29年度防衛大臣感謝状贈呈式

平成29年10月28日(土)グランドヒル市ヶ谷(東京)において、防衛大臣感謝状贈呈式が行われ、日出生台演習場及び玖珠駐屯地の安定的使用に尽力された功績により、大分県玖珠町朝倉浩平町長に贈呈されました。

当日は、朝倉町長所用のため小幡岳久副町長が代理出席しました。

贈呈式及び記念撮影に続き懇談会が行われ、小幡副町長は山本ともひろ防衛副大臣、山崎幸二陸上幕僚長などの防衛高級幹部と意見交換を行いました。



▲山本防衛副大臣(中央)と写真撮影する小幡副町長(左)

「日出生台演習場の米軍使用に関する協定」の更新に係る調印式

平成29年10月30日(月)大分県庁において、九州防衛局長と日出生台演習場問題協議会(以下「四者協」といいます。※)との間で、「日出生台演習場の米軍使用に関する協定」の更新に係る調印式が、西部方面總監代理梅田訓練課長立会いの下で行われました。

本協定は、沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の本土における分散・実施に当たり、沖縄に駐留する米海兵隊が日出生台演習場を使用することについて、平成9年に福岡防衛施設局長(当時)と四者協との間で締結されたものです。

本協定の目的は、基本的遵守事項等を定め、協定当事者間の相互の便宜を図るとともに、地域住民の不安や懸念の解消を図り、良好な地域の生活環境及び自然環境を確保することです。

本協定の効力は5年間で、これまで5年ごとに更新または改定を行っており、本年10月末には4回目の期限を迎えたため、合意文書を作成の上更新したものです。

また、より一層の住民の皆様への安全・安心の確保等を図るとの観点から、四者協より協定とは別に確認書の締結要望があったため、前回更新時に作成された覚書と同じ内容の確認書を新たに締結しました。

協定の調印後、三貝九州防衛局長は、「今後とも地域の不安解消、負担軽減等を図るため、訓練に際しては国と地元が連携しながら住民の皆様への安全・安心の確保に尽くす所存です。」と述べました。

※「四者協」参加自治体の長…大分県知事、由布市長、九重町長、玖珠町長



▲左から、西部方面總監部梅田訓練課長、日野九重町長、広瀬大分県知事、三貝九州防衛局長、相馬由布市長、朝倉玖珠町長

九州防衛局長感謝状贈呈

平成29年11月九州防衛局長は、当局業務の円滑な推進と防衛施設の安定的使用に多大な貢献をした、個人4名団体2組に感謝状を贈呈しました。

感謝状を贈呈された方々は、次のとおりです。

【個人】



▲11月7日(火)
二嶋富寛大村市漁業協同組合代表理事組合長
大村航空基地の安定的使用に永年寄与
(右は、九州防衛局高谷管理部長)



▲11月21日(火)
田中純行橋市長
築城基地の安定的使用に永年寄与
(左は、九州防衛局岩田企画部長)



▲11月22日(水)
山野一三おおすみ紳漁業協同組合代表理事組合長、鹿児島県基地周辺漁業対策協議会佐多対空射撃場部会長(右)
佐多対空射撃場水域の安定的使用に永年寄与



▲11月27日(月)
中西茂鹿屋市長
鹿屋航空基地の安定的使用に永年寄与
(左は、九州防衛局掛水企画部次長)

【団体】



▲11月20日(月)
日興技化株式会社代表取締役磯部哲也様(左)
自衛隊により回収された不発弾の安全処理に貢献



▲11月20日(月)
株式会社ワーク代表取締役上村ケサヨ様(左)
装備品の製造、品質確保、納期厳守に貢献

九州防衛局広報活動～缶バッジ等の配布～

九州防衛局では、航空祭等の自衛隊イベントにおいて専用ブースを設け、広報誌の配布やパネル展示などの広報活動を行っています。

特に人気を集めているのが、記念の缶バッジをプレゼントするコーナーです。

入手方法は、クイズに答えると(展示パネルにヒントが・・・)ご覧のような自衛隊装備品がカッコよくプリントされた缶バッジがもらえます。

今年は、11月26日の築城基地航空祭と12月3日の新田原基地航空祭で行われました。来年も多くの広報活動を行う予定です、九州での自衛隊イベントにお越しの際は、ぜひ九州防衛局専用ブースをのぞいて下さい。



九州防衛局では不測の事態に対応するため、夜間・休日を問わず連絡体制を確保しております。

夜間及び休日の連絡先

電話:(092)483-8832 FAX:(092)472-1959

・平日は17時15分から翌朝8時30分まで、
休日・祭日は終日。